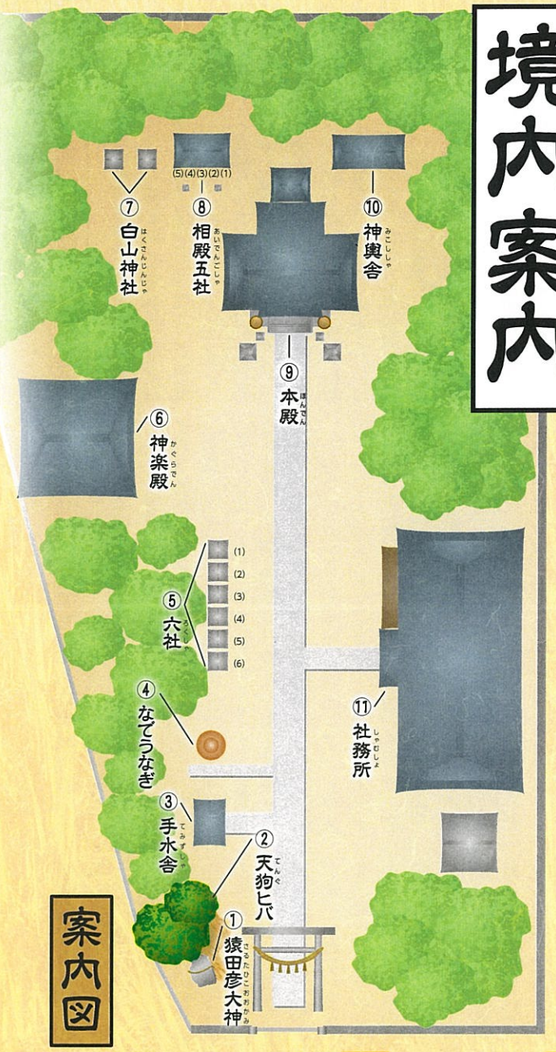
境内案内



① 猿田彦大神

御祭神　猿田彦命

社殿のない神社である。天孫降臨の折に邇邇芸命を地上までお導きになった神として知られる。全てのことを良い方向に導いてくださる神、交通安全の神として信仰されている。

② 天狗ヒバ

天狗様（猿田彦大神）が宿る御神木であり、参拝される皆様が良い方向に進まれるよう、木の上からいつも見守ってくださいます。

③ 手水舎

私たちの祖先は、神社にお参りをして御神威をいただくためには、まず自ら「心身の清浄」につとめることを、必須の条件と考えていました。

参拝の前には、「心身の浄化」のために「手水」を励行しましょう。

手水の作法

1、右手で柄杓を取ります。
2、水盤の水を汲み上げ、左手にかけて洗います。
3、柄杓を左手に持ち替え、水を汲み上げ右手を洗います。
4、再び柄杓を右手に持ち替え、左手のひらに水を受けて溜めます。
5、口をすすぎます。柄杓に直接口をつけないようにしましょう。静かにすすぎ終わって、水をもう一度左手に流します。

④ なでうなぎ

当社の御祭神のお遣いであるうなぎは、水を求めてどんな困難や障害も乗り越え前進する強い生命力を持っています。

うなぎとご自身の干支をなでて身体健全・家内安全・事業繁栄をお祈りください。

⑤ 六社

御祭神

(1) 須賀神社　素盞嗚命
疫病や苦しみ、不幸を祓い、救いの手を差し伸べてくださる神

(2) 大杉神社　大己貴命
病気治癒、縁結び、夫婦和合の神

(3) 御祖神社　御祖大神

(4) 稲荷神社　豊受大神
すべての産業の守り神

(5) 血方神社　思兼命
知恵と学問の神

(6) 産泰神社　息長足姫命
子授け、安産、子育ての神

⑥ 神楽殿

毎年四月十三日の御神楽祭で御神楽が奉納されます。

⑦ 白山神社（三社）

御祭神
菊理媛命
和と結びの中から新しいものを生成する神

⑧ 相殿五社

元々は御本殿に奉斎されていたが、いつの頃か不詳であるが独立したお社に祀られた。

御祭神（右から）

(1) 大国社　大国主命
縁結びと病気治癒の神様

(2) 稲荷社　宇迦之御魂命
すべての産業の守り神

(3) 神明社　天照大御神
慈愛に満ちた心を以って全てを許し、お守りくださる貴い神様

(4) 水神社　水波能賣命
縁結びと病気治癒の神様

(5) 山神社　大山祇命
山の幸、野の幸の恵みの神様

⑨ 本殿

御祭神
磐裂命
根裂命
経津主命
詳細は「神様と由緒」を参照

⑩ 神輿舎

七月十三日直近の日曜日には御神輿が宮出しされて大杉祭典が斎行されます。

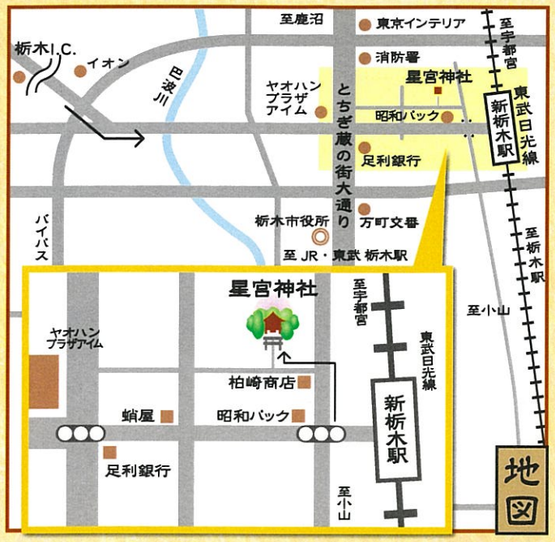
⑪ 社務所（兼 宮本自治会公民館）

お神札やお守りの授与、御祈祷の受付などを行います。不在の場合は境内裏手・宮司宅までお電話ください。
電話（0282-23-0795）

もくじ

ページ① 表紙（巻の御神楽祭）
ページ②③ 境内案内
ページ④ 星宮神社の神様と由緒
ページ⑤ 参拝の仕方
ページ⑥ コラム①神様の拝み方（私の場合）
ページ⑦ コラム②こんなに面白い神様と神社の豆知識、宮司ごあいさつ
ページ⑧ 交通案内・御朱印について

第一版



平柳 星宮神社 鎮座地

栃木市平柳町一丁目
二十三番二十六

平柳 星宮神社 交通

電車の場合
東武鉄道日光線新栃木駅
西口より北西に徒歩五分

お車の場合
東北自動車道 栃木インターを出て右、東へ約十分

※詳しくは上記地図をご参照ください。

御朱印について

中央の朱筆は虚空蔵菩薩の乗り物である鰻を描いております。

平柳 星宮神社 御朱印

※季節によってデザインが変わります。

発行　平成三十年 一月 吉日
印刷所　昭和パック株式会社
代表取締役社長　谷中 俊太郎

制作・文責　宮司 林 靖大
制作・文責　広報担当総代 谷中 宏太郎
指導・監修　責任役員 石崎 常藏
編集・印刷・奉納
昭和パック株式会社（TEL 0282-24-6000(代)）
調査・文責 取締役会長 谷中 宏太郎
印刷・加工 常務 村井 信一
デザイン（企画デザイン部チーフ） 渡部 遼

※無断複製はお控えください。

星宮神社の神様と由緒

一、御祭神

主祭神

磐裂命・根裂命・経津主命

三柱の神様を御本殿にお祀りしています。

相殿神

天照大御神・宇迦之御魂命・水波能賣命・大国主命・大山祇命

五柱の神様を御本殿の西に鎮座する五社にお祀りしています。

明治三十五年　九月二十八日
　大暴風雨で鳥居・神楽殿を大破。同三十七年再建。
明治四十年　五月三日
　幣帛料共進社に指定される。
昭和七年　十一月十五日
　大北風による倒木で本殿・拝殿・神楽殿を大破。同十年十月十三日竣工式を挙行。
昭和五十一年　十二月五日
　社務所　落成
平成六年　十一月十三日
　配神を祀る相殿五社を改築（相殿五社）
平成十年　十月十三日
　幣殿を改築
平成十八年　十二月
　社務所に礼場を増設
平成二十七年　十二月
　境内改装　なでうなぎの設置

二、由緒

当社の社伝として次のように語り継がれています。

当社鎮座初めの地宇津間川のほとりに三神光輝を発して現れ、『合をこの地に祀らば国土を鎮護し万民を寧居せしめん。』と告げた。そこで祠を建て崇仰す。
後花園天皇の御世、永享二年、領主信仰の余り社殿を造営し、近郷の崇敬の社となる。境内を流れる川を『みたらし川』と称す。

宇津間とは現在の巴波川の古称であり、巴波川のほとりの社有地（現、栃木市大町字河原）が鎮座初めの地です。神勅を奉じて宇津間のほとりに社殿を造営し、そこから取水した「みたらし川」は流域を潤し農業生産の基盤となりました。

今から580年前の**永享**二年（室町時代、西暦**1432**年）に社殿を造営するに当たっては、恵みの川である「みたらし川」のほとりに社地を選定し、本殿を通して本宮を拝する里宮の形式をとりました。新しい社殿が建立されると、五穀豊穣の守護神として、近郷の崇敬の社になりました。

江戸時代に至り、巴波川の舟運の発展にともない平柳河岸が開かれ商業が盛んになると、商売繁盛の守護神としての性格も併せ持つようになりました。江戸時代までは社名を平柳大明神と称し、虚空蔵菩薩を併せ祀りました。（神仏習合）慶応四年に神仏判然令が布告され神社から仏教色が排除される時に社名を星宮神社と改めましたが、現在でも「こんぞうさま」と呼び親しまれています。

歴代の神職は、虚空蔵菩薩の乗り物である鰻を御祭神のお使いとして、鰻を食べない風習を守り伝えています。

明治十三年、明治三十五年昭和七年と三度大風により境内の大木が倒れ社殿を大破損壊しましたが、いずれも氏子崇敬者の奉賛を得て再興がなり、現在に至っております。

三、沿革

元禄三年
　祠官　林和泉守源昌次の代に老朽化が著しい社殿の再建に着手し、同八年完成。
安永七年　五月十九日
　後桃園院英仁天皇御璽の神階正一位を拝受。
明治元年　十一月
　「利鎌隊」の調練所が置かれた。
明治十三年
　大北風で神木が倒れ、本殿・拝殿・神楽殿を大破。同十六年再建。

四、御神徳

経津主命：国土鎮護
　氏崇拝者の家庭が平和で豊かな生活ができるように、この地域をお守りする。
磐裂命・根裂命：生命力の向上
　剣の威力で罪穢れを祓い除け、明るい未来を切り開く。
虚空蔵菩薩との合祀
　命を恵み知恵を授ける。

本殿に祀られております御祭神は開拓・農耕の神として往古より崇敬されてきました。また、剣の神霊であり、私たちの身に知らず知らずとり憑いた罪穢れをその強い力で祓う、祓・厄除けの神として信仰を集めております。

虚空蔵菩薩様はうなぎに乗って現れるという言い伝えがあったので、なでうなぎはその御神徳をあやかったものです。

五、年間のお祭り

○元旦祭
○春祭（御神楽祭）
　四月十三日御神楽が奉納されます。
○大杉祭
　七月十三日に近い日曜日に行われます。
○例大祭
　十月十三日に近い日曜日に行われます。

参拝の仕方

1、鳥居をくぐる
　神社の鳥居には、世俗と神域を区切る意味合いがあると言われています。くぐる際に一礼します。また、境内を出る際にも社殿の方に向き直って一礼すると丁寧です。
2、参道の歩き方
　参道の中央は神様の通り道（正中）といわれます。参道の中央は避けて進みましょう。
3、手水をとる
　神様にお近づきになる前に、手水舎の水で心身を清めます。（手水の作法は、ページ③境内解説参照）
4、参道を通って御神前に進む

拝礼の作法

1、拝所に立ち会釈をします。
2、鈴を鳴らします。
　※正式な順序は定められていませんが、祓いの意味や神霊の発動を願うものと考えられているので、ここで鳴らすとよいでしょう。
3、神様に捧げる真心のしるしとして、お賽銭を入れます。
4、二礼二拍手一礼（二拍二拍手一拍）の作法で拝礼します。
　①深いお辞儀を二回繰り返します。【二礼】
　②両手を胸の高さで合わせ、拍手を二回打ちます。【二拍手】
　③最後にもう一度深くお辞儀をします。【一礼】
5、会釈をして退きます。

コラム①　神様の拝み方（私の場合）

文責　広報担当総代　谷中　宏太郎

以前何かの神道の参考書を読んだ時に「神様の拝み方」という部分を拾い読みしました。基本的には**二礼・二拍手・一拝**であるが、ただ「**家内安全・商売繁盛**」と自分の願望だけを称えるだけでは神様に願いが充分に届くかどうか分からない。神様は感謝の心をもって素直な心で拝んでくれる人を優先して加護してくださるのではないか。先ずは心の内を神様に告白しましょう。そして願い事をするに相応しい額の**お賽銭を投入**。（過分でなくても精一杯の気持ちが籠っていれば十分）次いで、二拍手の手の平を合わせたままで、「**祓え給い、浄め給え、幸え給え**」と声を上げて口上。「神様、日頃は**御加護**を給わりまして有り難うございます。**お陰様**で今日もこうして無事健康でお参りしております。商売の方も先ず先ずうまく行っております。続いて家内安全・商売繁盛の程**御加護を下さいませ**。」という気持ちを心の中で念じるのです。仏教では「南無阿弥陀仏」や「南無妙法蓮華教」、「南無大師遍照金剛」等々と宗派によって異なっても**口に出して**称える習慣が定着していますが、以上記したように拝むとその気持が神様に届いて、必ずや御利益があるのではなかろうかというような事が書かれており目が覚める思いでした。

以後私はそのように実践するようにしております。星宮神社は平柳町一帯の地域の神社でもありますので「家内安全」等、自分の願いの他に「**地域繁栄**」の願いも必ず付け加えるようにしています。

コラム②　そうだったのか!!　こんなに面白い神様と神社の豆知識

文責　広報担当総代　谷中　宏太郎

日本神話について書かれた書物には多数ありますが、その主なものとしては一、日本最古の歴史書「**古事記**」（西暦712年）と二、「**日本書紀**」（西暦720年）でありこの二つは略称して併せて「**記紀**」と呼ばれます。

「どこが違うのか？」日本書紀は主に外国向けに書かれたため当時の国際語・漢文（現代では英語？）で書かれたため、日本人には難解な書籍となっていました。これに対して、「古事記」は主に国内向けに書かれたため、日本語（当時はひらがな・カタカナが無かったので漢字を表音として使う）いわゆる万葉仮名で書かれたため神様の名前などは色々な漢字が当てられ、私達には多少違和感があるのはそのせいです。例えばスサノオノミコトは「須佐之男命」と「素盞嗚尊」など何通りかあるのもそのせいです。

ここでは紙面の都合上いくつもの神話をすべて物語風に記す訳には行きませんが、主な物語のタイトルを記しますと、①天地創成。②**イザナキとイザナミ**による国生みと神生み、イザナミの死とイザナギの**黄泉国**訪問。③**高天原**での神々の生活と対立、**スサノオ**の乱暴狼藉と**太陽神アマテラス**の天岩戸隠れとその痛快な解決（**アメノウズメ、タヂカラオノミコト**等の活躍によるアマノイワトビラキ）。④天孫降臨。⑤スサノオノミコトによる**八岐大蛇退治**と蛇身中よりの**草薙剣**取り出し。⑥イナバノシロウサギとオオクニヌシノミコト（大黒様）の物語。⑦オオクニヌシはスサノオに認められて出雲大社に祀られ、アマテラスに請われてオオクニヌシは国を譲る。⑧ウミサチヒコとヤマサチヒコの物語など、ほとんどの日本人が幼い頃から知っている面白い豊かな話が一杯です。

この他に神話のタイトルを積み上げれば⑨アマテラスの六代目の子孫**カムヤマトイワレビコ（初代天皇・神武天皇）**の日向の国・高千穂出発～大和の国に至るまでの東征と熊野からの難路を**八咫烏**先導のエピソード。⑩**倭健命**の九州をはじめ全国遠征物語など**大和の国の天皇家**がこの**日本を支配するに至った正当性**が述べられています。従って戦前は古事記が日本の歴史として学校で教えられておりました…。なお、当文中の①～⑩は必ずしも歴史的な流れ順番を示すものではありません。

もう一度「古事記」を読んでみませんか？現代口語で書かれた文庫本など多数発行されています。それと八百万の神と言われる多数の神様はなぜ生れたか？なども知っておきたい知識であります。（第二版以降予定）

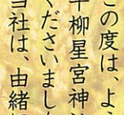
神々の姿と『古事記』の舞台

天照皇大神　諸大神絵像

天照皇大神（天照大御神・太陽神）を中心にして、その左右に伊佐那岐大神と伊佐那美大神など、日本のおもな神々が描かれている。（やよい文庫蔵）

豊受大神は天照皇大神専属の食事調達係。春日大神は奈良県奈良市にある春日大社　藤原氏の氏神様。八幡大神は応神天皇を祀った八幡宮の主神。この絵の中で猿田彦大神（天狗）のみが国つ神で、他は天つ神である。

宮司ごあいさつ



宮司　林　靖大

この度は、ようこそ鎮守平柳星宮神社へお参りくださいました。

当社は、由緒にも記載しましたとおり数度にわたる社殿損壊や、社会的には先の大戦後の神社を取り巻く環境の激変など、神社の存立にも関わる多くの危機的な状況もございました。こうした荒波を乗り越え、地域の崇敬の社として現在もあることは、ひとえに氏子崇敬者の皆様の氏神様を大切にする明き清き誠の心の賜物と、心より感謝を申し上げます。

今後とも神社の護持運営にご理解、ご協力をお願い申し上げますとともに、氏子崇敬者の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

またのご参拝を心よりお待ちしております。